ZEB受注増にらむ

常盤工業　29年までに30件提案

ゼネコン（総合建設会社）の常盤工業（浜松市）は、建物の消費エネルギーを実質ゼロにするZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の受注を増やす。先行して2022年に稼働した社屋が想定以上の運用実績を上げていることから、自社で設計する新築物件はすべてZEB化も進めていく。29年までに累計30件の提案を目指す。

ZEBはエネルギー消費量を基準値から50％以上削減することが最低限の目安となり、再生可能エネルギーの創出も加えながら75％以上、100％以上と削減率を引き上げていく。同社は22年4月に運用を始めた社屋「ときポート」で、23年3月までの初年度の削減率が103％となりZEBを達成した。

ときポートは鉄筋コンクリート造りの2階建てで、延べ床面積は1771平方㍍。断熱性を高め建物に蓄熱性を持たせるとともに、地下水を利用した冷房システムを設けることで、真夏でもほとんどエアコンを使わない。太陽光発電を節電に活用、二酸化炭素（CO_2）フリー電気の購入も併用し、年間のCO_2排出量も91・8㌧削減した。

実績をテコに省エネやZEBの普及を急ぐ。自社設計の新築物件の全てで省エネ技術を採用し、ZEB化は50％を目標に掲げ、現在1件が商談中だ。29年までにZEBプランナーとして30件を提案、ZEBを含め省エネ性能を高めた環境配慮型の建物を15件受注することを目指す。改修工事でもエネルギー削減やZEB化の提案を進める。

許諾番号30094780　日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2023年07月28日 日本経済新聞　地方経済面 中部 © 日本経済新聞社 無断複製転載を禁止します。